

# 1. 評価報告概要表

作成日 2008年9月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072000456
法人名	医療法人 富士たちばなクリニック
事業所名	グループホームゆめさき
所在地	勢多郡富士見村原之郷975 (電話) 027-288-1643

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年9月17日

## 【情報提供票より】(平成20年 8月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人	常勤換算7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	有 300,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 50 円

### (4) 利用者の概要( 8月 31日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	75歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 富士たちばなクリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大型のショッピングモールなどが並ぶ賑やかな県道から、一步入ると畑に囲まれた閑静な場所にグループホームがある。大きな窓からは上州の山並みが手に取るように見渡すことができ、また外には桜の大木があり居ながらにして花見が出来、広いスペースのベランダからは四季折々の草花を楽しむことができる。母体が医療機関であり、併設する訪問看護ステーションでの夜間対応も可能であることから、健康面でも安心して過ごせるホームである。運営推進会議には、地元の役員の方々の参加も多く、地域との交流が持たれており、交流を活かした取り組みも行われている。また、家族会も定期的に開催され、月1回の行事に参加されるなど、職員と家族が共に協力し合う温かさが感じられるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前任の管理者から引き継ぎがなかった為、外部評価の改善点について把握できず、具体的な改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価に取り組み記載し、管理者がまとめ作成している。外部評価の意義を全職員が理解し、取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開かれる運営推進会議は、自治会長をはじめ民生委員の方など、多くの参加で行われている。会議では、入居者の状況・行事の報告・予定の他、家族からの意見や要望を聞き、議事録にまとめている。運営推進会議を通じて、地域との交流も深まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書に、内部及び外部の苦情申立機関が記載され、家族会などでも説明をして、苦情相談窓口を明確にしている。家族会や面会時に出された意見や要望は、前向きに受け止め職員で話し合い解決に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、清掃活動やお祭りなどに参加し交流を図っている。散歩の際には、地域住民とあいさつや会話をしたり、採れたての野菜を頂いたりしている。非常時の協力をホームに隣接する3軒の家にお願したり、畑を貸していただいて野菜の収穫を行う等の交流を活かした取り組みを行っている。また、法人のお祭りに招待している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年に入り理念の見直しを行い、「人としての尊厳を尊重しつつ協調し合い地域に開かれた誰もが和み安らげるホーム」としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや申し送りで理念を共有し、実践の中で迷いがあれば理念に立ち返り取り組んでいる。温かみを感じる手書きで、理念をホールに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の農家の方とあいさつを交わしたり、野菜をいただいたりしている。自治会に入会し、清掃活動やお祭りなどに参加している。自治会で知り合った方から畑を貸してもらい、野菜の収穫をする等の交流を活かした取り組みをしている。また、法人のお祭りには自治会の人たちを招待し、交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が全員で分担し記入後管理者がまとめ作成している。外部評価は、前任の管理者との話し合いに結論が出ず、評価を活かした取り組みがなされていない。	○	評価を活かした具体的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、メンバーは、富士見村職員・自治会長・民生委員・家族会会長・法人部門責任者・管理者が参加している。会議では、事業所の状況報告、行事や外部評価などの予定や報告を行っている。家族からの意見や要望を聞き、議事録にまとめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	周辺道路整備の助成やスプリンクラーの設置について村役場の担当者と相談したり、来年度の市との合併に伴う事業所の利用範囲について等相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される法人の新聞に入居者の近況を載せて、利用料請求時に同封している。また3ヶ月に1回行われる家族会や面会時に、月々の行事の様子や日々の健康状態、金銭出納などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱が設置され、重要事項説明書に事業所の苦情受付や、外部の苦情受付機関が記されている。また、面会時や家族会などで意見や要望を聞き、話しやすい環境づくりに努めている。入居者本人の将来への不安や後期高齢医療制度についての話に、相談にのっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人関係の事業所が数ヶ所あり、職員の異動が行われている。異動した場合は、家族にわかるように玄関に顔写真入りで掲示したり、家族会などで説明をしている。新しい職員は、入居者に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を閲覧し、参加希望を確認している。群馬県主催の認知症基礎研修に、職員全員が受講している。また、法人内で行われる研修や外部研修には交替で参加し、ミーティングなどで伝達講習を行い職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会の所属研修会に参加している。法人内のグループホームが複数個所あるので、見学会や勉強会で意見交換などを行い交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体関連施設からの紹介が多く、利用前に施設を訪問し情報収集にあたり、本人とも馴染みの関係を図るよう努めている。また、隣接するデイサービスからの利用の場合等には、グループホームにも来ていただき雰囲気を感じてもらい、納得した上で入所して頂けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に家族という意識で入居者と接し、漬物の作り方や料理の味付け、十五夜の饅頭の飾り方など、長年の経験や知識を教えている。また、毎朝、新聞の読み聞かせをしている。「ありがとう」や「すまないねえ」など感謝の言葉が聞かれ、職員と入居者が支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や家庭での状況を、本人や家族から聞き意向を把握したり、意志表示の困難な人は日々の行動や表情から推測し、本人の意向に沿った生活を送れるよう努めている。誕生日に自分の願い事を書いていただき、その中から思いを把握し、これまで「お鮭が食べたい」「ねむい」などの希望に、お鮭を作ったり、昼寝をしていただくなどの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時の介護計画は、家族やかかりつけ医からの情報を基に担当職員がまとめ、ミーティングで話し合い、最終的にケアマネージャーが作成している。計画は、家族に説明をし了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、家族に評価と立て直した計画を渡し、了承を受けている。その間に変化が生じた場合には、新たな計画を立て直している。	○	見直しの回数を増やし、状態が安定し変化のない入居者であっても、見直しをすることで新たな情報や気づきが出てくると思われるので、介護計画に反映されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体クリニックへの受診は、職員が送迎をしている。併設している訪問看護ステーションから週1回の巡回があり、血圧測定や健康管理について支援しており、必要時には夜間も対応可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体のクリニックからの紹介が多いことから、かかりつけ医が継続されている。また、他の入所の場合には、かかりつけ医について説明し、希望を取っている。月1回の往診や週1回の訪問看護により、かかりつけ医との連絡を密にとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化や終末期の対応について入居者や家族に説明し、その同意書をとっている。現在、対象者がいないが、対応できる体制を整えられるよう職員で話し合いをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に、法人で個人情報に関する取り扱いの同意書をとっている。プライバシーについては常に人格を尊重し、トイレの誘導時等の声かけに配慮したり、記録物は高い戸棚に収納し出したままにしないよう心がけている。法人の新聞に顔写真などを載せる時は、事前に家族から了承を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課表はできているが、それにとらわれることなく昼寝をする人、洗濯物をたたむ人、テレビを見る人などその人のペースに合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきやモヤシのひげ取り、テーブル拭きやお茶だしなど職員と一緒に準備をしている。音楽をBGMに、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。入居者間のトラブルを考慮し、座る位置を考えて気持ち良く食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる状態にあり、毎日入る人や週3回～4回入る人など様々である。入浴を拒否される人には声かけをし「先生の診察があるよ」などと誘導している。また、季節の菖蒲湯やゆず湯・入浴剤などを入れて入浴を楽しんで頂けるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を洗ったり、たたんだり、食事の準備をしたり、お茶入れをしたり、野菜作りなど無理強いすることなく、個々人の能力を活かし、自然に役割が出来ている。楽しみごとでは、輪投げ・ボウリング・折り紙・塗り絵の他、計算問題をしたり、デイサービスの場を活用し運動会を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回デイサービスの車を利用して外出をしている。道の駅で、思い思いの食事を注文して食べたり、敷島公園や大胡の風車を見にお弁当を持参して出かけている。日常的にホーム周辺の散歩をしたり、近くのショッピングモールに食材の買い出しに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、ホールからベランダへの出入り口は開放されているが、ホールから玄関への出入り口が施錠されている。	○	日中は施錠しない工夫をされるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を5月と11月に実施している。消防署との訓練では、入居者も一緒に参加している。地域の応援態勢は、自治会長との話し合いができており、事業所と隣接している3軒の家には協力いただけるよう了承が取られている。また、法人の施設間での応援態勢が取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は、法人の献立表を参考に、栄養バランスに配慮して職員が作成している。各食後に、摂取量と水分量をチェックシケアシートに記載している。糖尿病の疾病の人には、主治医の指示によりカロリー制限をしたり、一人ひとりの状態に合わせてきざみ食など形態を変え提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたホールには、テーブル・ソファーや畳コーナーを設置して、思い思いの場所でテレビを見たり会話を楽めるように工夫している。また、職員が食事の準備をしながらでも入居者の行動が見渡せるような配置になっている。ホールからは、ベランダに出ることができ外気にあたるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた筆筒やテレビが置かれ、壁面には誕生日会のお祝いの色紙や写真が飾られている。解放された窓からの眺めも良く、居心地の良い居室となっている。また、各居室に洗面台や収納ロッカーが設置されている。		